

「家がいいね」 第99号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2012. 8. 14

夕焼けは、儂（はかな）き雲に在る

残暑お見舞い申し上げます。連日の日射しに何とか身体が持ち、夕暮れの空気が少しだけ凌ぎ良いと感じます。

毎日、陽が落ちるといつても、こんな

素晴らしい夕焼けはありません。車を停めて携帯を空に向けてました。感動も写真に留まりました。

全ての色あいは刻々と変わります。移ろう儂き雲が、沈む太陽と共に主役を演じています。今日も同じと過ごす中に、愛おしき時間がありますね。



講演会のご報告

7月8日、佐治晴夫先生に「いのちという名の万華鏡」をお話いただきました。

宇宙の中の私たちの命を、映像・音楽や、優しい説明で、五感を超えたつながりだと示されました。小学生を含めた350名余が心地良い時間を共有しました。

みえ生と死を考える市民の会運営スタッフも満面笑みで「ゆらいで」います。

縁（えにし）の家で

9日の夕に、津軽三味線の松田隆行さんのミニライブが開かれました。在宅ホスピス活動への支援としてNHK厚生文化事業団中部支局の主催です。28名の参加者が一体となり、弾き語りを中心に心を揺さぶられました。家も喜ぶ催しを、次も考えたいと思います。



当事者こそ力を出す

7月14日は臨時休診し島根がんサロン支援塾に出張しました。伊勢から益田市までは6時間でした。北海道から福岡まで27名が集まりました。6年前、がん患者自身がサロンを立ち上げ、今や県内27カ所になるというパワーには驚きます。患者の提言は、病院・行政・地域と広がり、全国からも注目される島根県です。

懇親会でたまたま隣になったのが、右は「おおなん元氣サロン」の加山さん、左は「松江くつろぎサロン」の内谷さん。続ける秘訣をたくさんお聴きできました。



自分で考える「食べられなくなったら」

そうになったら病院で勧められるのが、最近では胃瘻（いろう）になります。結論を出すのに考える時間はわずかしが許されません。最近の病院は、一つの病状の治療に目途をつけて、2週間以内の退院を迫るシステムだからです。実情を知り、いざとなったら、どう相談するか考えてみましょう。市民公開講座を、9月2日（日）の午後1時半、日赤の1階ホールで「終わりよければ」いせの会が主催して開きます。参加無料、事前申込不要。ここでも基本は、当事者だと考えます。本人と家族が、普段から率直に話し合あうことが最大の準備になります。開催情報の詳細はチラシで。



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805
三重県伊勢市御園町高向 927
電話 0596-20-8104
ファクス 0596-20-8105
メール homecare@kr.tcp-ip.or.jp
ホームページ <http://isezaitaku.com>